

「55～65歳の人達」へ～「一つの提言」と捉えてください

少子高齢化／人口縮小が加速する社会情勢を「未来の時間軸」（現在55歳が80歳になるのは25年後のこと）を織り込んで考えると、私達「現役世代」は『80歳まで働く社会』を生きることが分かる。では、「どうやって80歳までの仕事人生を全うするのか？」——この「問い」を解決しなければいけない局面で、まずやるべきことは、「見極めるべきことは何か？」&「ケリをつけるべきことは何か？」を考えて、腹をくくることである

今の会社で働き続けても、定年後再雇用は期間に上限があるし、年収は低く抑えられ、ピーク時で1000万円だった人は3～4割になってしまう。それ以上に問題なのは、「必要とされない」というのが殆どで、**シボくれたり心に鎧ができて、1年も経ったら仕事人生を続ける気力を失ってしまう**。さらに、役職定年も“定年”の字が尻に付いているように、**役員候補や／特殊スキルの人を除けば、退職してもらいたいのが企業の本音である**

「役職定年制度」の有る・無しに関わらず、「その年齢」（＝55歳頃）を意識したら、自律的に後進に役割交代して転進するのが「生産的な選択肢」ではなかっただろうか。**見極めるべきは「これから転進していく道筋」であり、ケリをつけるべきは「自分の仕事人生は自ら選び取る」ということ**。今から始めても何ら遅くはない

「人口縮小×高齢者の高齢化」による「社会保障の担い手不足」という社会問題に対しては、「長く生きること」は長く働くこと」というのが唯一の答えです。——2006年 OECDが「Live longer, Work longer」時代の到来を唱えましたが、この状況がますます現実味を増しているということです。

→ 寿命が大きく伸びているのに、貴重な人材を社会から早く「退場」（＝リタイア）させて、現役の負担を重くするという政策はあり得ません。このことを認識すべきです

さらに「55～65歳の人達」が認識すべきなのは、70代に入った「新たなリタイア世代」が厳しい事態に陥っていることです。——それは、「社会や家庭での居場所のなさ」と「癌やMCI／認知症に怯える日々」です。この事態を“後追い”しないためにも、「気付いて／思い立ったが吉日」です。「これから転進していく道筋」を見極め、「自分の仕事人生は自ら選び取る」ことに舵を切ることです。そして現役「年長組」である「55歳以上の人達」が率先垂範して「右肩上がりの幸せな人生」実現に向けて行動するのが美しい姿です